

建築保全センター 2012年度公共建築月間 記念講演会

2012. 11. 29

建築保全センターは、2012年度公共建築月間記念行事として、11月29日、東京都港区の建築会館ホールで、「保全技術研究会・記念講演会」を開催した。「公共建築マネジメントの課題とその解決へのプロセス」を探る研究報告やパネルディスカッション、

「長寿命建築とは何か」を説き明かす首都大学東京の青木茂教授(青木茂建築工房主宰)の講演により、ストック時代における長期的視野に立った公共建築のあるべき管理・再生方法が浮かび上がった。

記念講演 長寿命建築とは

「時間」をデザインする リファインニング建築の

「リファインニング建築」は、既存躯体の約8割を再利用し、建て替えるの6-7割のコストで、意匠を大胆に変更、耐震性を現行法規レベルまで引き上げ、設備を一新する再生手法である。その考え方を講演で披露した。

首都大学東京教授
青木茂建築工房主宰
青木 茂氏



「リファインニング建築」は、既存躯体の約8割を再利用し、建て替えるの6-7割のコストで、意匠を大胆に変更、耐震性を現行法規レベルまで引き上げ、設備を一新する再生手法である。その考え方を講演で披露した。

「リファインニング建築」は、既存躯体の約8割を再利用し、建て替えるの6-7割のコストで、意匠を大胆に変更、耐震性を現行法規レベルまで引き上げ、設備を一新する再生手法である。その考え方を講演で披露した。

ストック社会のあるべき姿

建築保全センター理事長
尾島俊雄



2012年度公共建築月間の記念講演会は、「建築・都市とストック社会」シリーズ第1回として、「リファインニング建築」の提唱者である青木茂先生をお招きしました。演題は、「長寿命建築とは」です。

2012年度公共建築月間の記念講演会は、「建築・都市とストック社会」シリーズ第1回として、「リファインニング建築」の提唱者である青木茂先生をお招きしました。演題は、「長寿命建築とは」です。

金属板のカーテンウォールで建物を使い、地元の杉材や伝統工芸の和紙を使うなど、日本の伝統美を残しつつ未来的な建築にしました。コストを抑えるため、減量した上で耐震補強しています。補強方法は、建物に合わせて変えていくべきだと思います。減量に伴い発生したコンクリートガラは、中庭に敷き歴史をたぐうという活用方法を採用しました。

下関市満珠荘



築38年の旅館(老人体ホム)を環境に配慮して再生(上)

清瀬けきホール



築32年の文化ホール(下)を再生(右)、客席や音響などの観賞環境を改善

八女市立福岡中学校屋内運動場



コンクリートの90%以上が中性化した築40年の体育館(下)を再生(右)

家歴書づくり信頼性担保 耐久性への認識を高める

昭和初期にできた歴史的な建造物「旧戸畑区役所」(北九州市)は、近く改修工事に着手します。後年の増築部分などを解体し、吹き抜けた窓を撤去し、創設当時の外観を再現します。外壁に構造上の機能を持たせなければ、クラシックな建物の外観を維持しながら補強できるという考えが、昭和初期は欧州でいえば、戸畑の文化と歴史をミックスできると思っています。

リファインニング建築の特長

- ・環境にやさしい
- ・用途変更ができる
- ・耐震基準をクリア
- ・建て替えの60-70%のコスト
- ・デザインを一新

リファインニング建築の特長は、用途変更ができる、耐震性をクリアできる、デザインを一新できる、CO2排出量がスラップ・アンド・ビルドに比べ84%減になる、費用を新築の60-70%にできるという5点です。



(一財)建築保全センターは、建築物の維持管理や改修など保全に関する調査研究・企画立案・技術開発等を通じて公共建築の適正な保全と新しい視点からのストックマネジメントを支援します。

安全の情報センターとして
公共建築物の有効活用をサポートします。
一般 建築保全センター
BMMC Building Maintenance & Management Center
〒104-0033 東京都中央区新川1-24-8 TEL.(03)3553-0070 FAX.(03)3553-6767
E-mail:info@bmmc.or.jp URL:http://www.bmmc.or.jp